ジオ通信（第10回）

大地を見る目を磨こう！

～めざせ！筑波山地域ジオパーク～

ジオパークは、科学的に貴重な、あるいは景観として美しい地域・地質などの「地球の遺産(Earth Heritage)」を保護するとともに、教育、ツーリズムなどの推進に活用し、地域の持続可能な発展に寄与することを目的としています。「ジオ」は「地球・大地」という意味があり、ジオパークは「大地の公園」ともいわれています。

現在、つくば市は、筑波山周辺の５市(石岡市、笠間市、桜川市、土浦市、かすみがうら市)とともに、住む人にも訪れる人にも「みんなに愛される地域づくり」を目指して、ジオパークの活動を進めています。

申・問　ジオパーク推進室🅷「筑波山地域ジオパーク構想」で検索

関東平野に抱かれた山と湖 ～自然と人をつなぐ石・土・水～

筑波山地域ジオパーク推進協議会は、筑波山地域の日本ジオパーク認定を受けるため、４月に日本ジオパーク委員会に申請を行いました。

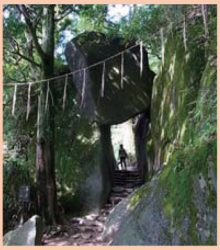
筑波山地域は、主に、日本百名山の一つである名峰筑波山を含む山塊と、湖面積が日本第２位の霞ヶ浦、それらをつなぐ平野で構成されています。特に急峻な双峰となだらかな裾野をもつ筑波山は、「西の富士、東の筑波」と称されるなど、関東のランドマークとして、人々の山岳信仰や伝統文化などの舞台となってきました。また、この筑波山を含む山々と霞ヶ浦は、関東平野の領域に含まれるように存在しています。加えて、本地域においては、その石・土・水を基礎として、真壁石などの石材業、笠間焼などの窯業、豊富な水を活用した農業、醤油・酒などの醸造業を発展させてきました。

これらのことから、今回申請を行った筑波山地域ジオパークのテーマを「関東平野に抱かれた山と湖～自然と人をつなぐ石・土・水～」としました。筑波山地域のジオの魅力を「筑波・鶏足山塊ゾーン」「霞ヶ浦ゾーン」「山と湖をつなぐ平野ゾーン」の３つのゾーンに分け、ストーリーを交えて紹介しています。（詳細はホームページに掲載されています）

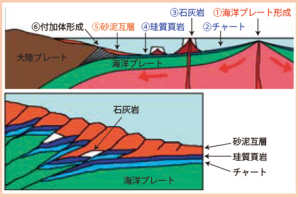
筑波・鶏足山塊ゾーン

「筑波・鶏足山塊ゾーン」では、山々を形成する岩石の特徴から地下深部でのマグマの形成や海洋プレートの大移動といった数千万年前のダイナミックな大地の変動の歴史を学ぶことができます。

▼筑波山「弁慶の七戻り」(風化しにくい斑れい岩)



▼鶏足山塊で見られる岩石（八溝層群の付加体堆積物）の形成環境（ミュージアムパーク茨城自然博物館、2013）



山と湖をつなぐ平野ゾーン

▲日本最大の関東平野

「山と湖をつなぐ平野ゾーン」では、日本最大の関東平野の成り立ちを学ぶことができます。長い年月をかけて蛇行河川がつくり出す地形・地質のほか、里山の生態系や水害の歴史など、河川の恵みや猛威とともに暮らす人々の知恵が見られます。

霞ヶ浦ゾーン

▲海水準変動と海岸線の変遷

霞ヶ浦は、かつては海だった場所が内陸に取り残されてできた湖です。「霞ヶ浦ゾーン」では、数十万年前以降の気候の変化に伴う海面変化によってつくられた地形や地質がよく保存され、地層中にはマガキなどの貝化石も見ることができます。

▼崎浜のカキ化石床（かすみがうら市）